



なごみだより

みなさん、こんにちは。3年生は卒業の時期を迎えました。門出をお祝いいたします。

なごみルームでは、みなさんが安心して生活が送れるように寄り添い、サポートしていきます。悩みや不安があるときはひとりで抱えずに、相談をしてくださいね。ちょっとおしゃべりがしたいなどと思うときも是非利用してください。お待ちしております。

火・水・金曜日・・・心の教室相談員 岩澤

木曜日・・・スクールカウンセラー 江波戸

なごみルーム3月の予定

月	火	水	木	金	土	日
					1	2
3 岩澤	4	5	6 岩澤	7 岩澤・江波戸	8	9
10	11 岩澤	12 岩澤	13 江波戸	14 岩澤	15	16
17	18 岩澤	19 岩澤	20	21 岩澤	22	23
24	25 岩澤					
なごみルームの前にも今月の相談日の予定を掲示してあります						

相談したいときは…保健室の小関先生や担任の先生、教頭先生、その他の先生、誰にでもよいので「相談員、またはスクールカウンセラーと相談がしたい。」と希望を言って予約を入れてみましょう。私たちに直接「今日、相談がしたい。」と伝えるのも良いです。

保護者の皆様へ

相談室では保護者の皆様のお子様に関する心配なこと、不安なことに対するご相談も受け付けております。面談を御希望の方は、学級担任、養護教諭、教頭を通じてお申し込みください。

山武望洋中の皆さん、こんにちは。3月に入り、3年生は旅立ちの時を迎えようとしています。1、2年生も来月にはそれぞれ進級します。慌ただしい日が続きますが、こういうときこそ「平常心」を忘れずに、落ち着いて生活しましょう。

さて、皆さんは「ぼく もぐら キツネ 馬」という絵本を読んだことがありますか。その中に、人間が最も勇気のいる言葉について書かれています。私は「ごめんなさい」かなと思ったのですが、「助けて」でした。私は「なるほど」と納得しました。2月号のなごみだよりの「ちょっとブレイク」で、江波戸SCも悩みをかかえたときに相談することの大切さを書かれていました。また、何かを頼む力を表す「受援力」という言葉のあることも知りました。

神奈川県で医師で大学教授の吉田穂波さんは、「私も弱みを見せること、弱音を吐くというのは、すごく勇気のいることでした」と話します。6人のお子さんの母親でもある吉田さんは、多くの人に助けってもらってきました。ありがたさは痛感しています。でも、だからこそ「誰でも困った立場になれば、すぐに救いを求めることの出来る社会であってほしい」とも語っていました。

そんな思いを強く持ったのは、吉田さんが東日本大震災で支援に駆けつけたとき、避難所で妊婦さんの被災者から「私なんて命があったからましです。どうか他の人を助けてあげてください。私はいいんです。」と申し訳なさそうに言われて、とてもショックだったからだそうです。人間は限界近くまで窮すると、かえって誰かに頼れなくなるものなのか、助けてと口にするとその瞬間、頑張っていた何かがポキリと折れてしまうのでしょうか。それ以来吉田さんは、頼む力の大切さを呼びかけています。「頼ることは、相手を信頼し、尊敬する証です」と…。

なごみルームでは、勇気を持って相談に来てくれたあなたの「助けて」に、いつでも応えたいと思っています。

今年度も残りわずかとなりましたが、よろしくお願いします。

心の教室相談員 岩澤 葉子

